①　2024年度 盛岡YMCA事業報告

「2024年度事業計画評価」

2024年度事業計画

中期計画4年目にとなる2024年度は、中期計画で掲げた以下の3つの重点目標が確実に実現できるように、各事業部においてアクションをプランを設定し、4半期ごとに評価を行うなど計画的に取り組んできました。

特に、現在YMCAのプログラムに参加している子どもたち、その家族、関わりをもった地域の諸団体との関係性を重視し、**「一人ひとりを大切に」**をモットーに、誠実で丁寧な取り組みを心がけてきました。

Ⅰ　地域の未来を支える子ども、若者を育てます。

Ⅱ　地域の諸団体と連携し、地域の抱える課題解決に取り組みます。

Ⅲ　盛岡YMCAの活動を継続させ、より充実させていくために、その土台となる組織の強化を図ります。

Ⅰ地域の未来をを支える子ども、若者を育てます。

1.子どもたちに安全で安心して過ごせる放課後の時間と居場所を提供します。

1）放課後児童クラブ職員の保育の基準となる、「盛岡YMCAぷらいむ・たいむハンドブック」のさらなる充実を図り保育現場において有効に活用していきます。

★　簡単なハンドブックは作成できたが、系統的に整理されたものではない。

2）放課後児童クラブの職員に対する研修を計画的に実行していきます。

★　救急法、アレルギー対策、運転講習、「遊びの方法」など外部講師を招き、計画的に実行することができた。

3）2020年度から取り組んでいる伴走プログラムを具体的に日々の保育に活かしていきます。

★　伴走プログラムに特化した「ふりかえりの仕方」という研修会を年2回開催し、学びを深めることができた。

4）放課後等デイサービスについての調査を継続します。

★　盛岡市並びに近隣の動向を調査した結果、「放課後等デイサービス」の開設は当面、見送る判断をした。

5）中央通りに新たに取得した「盛岡YMCA本館」において「こどもの居場所づくり」のプログラムを開始します。

★　盛岡市の状況の調査を行ったが、プログラムは開始できなかった。

2. ウエルネス事業（野外活動を含む）を通して、こどもたちの調和のとれた成長を促します。

1）それぞれの事業のサービス提供の基準となる「ハンドブック」を作成し、有効に活用していきます。

★　各事業で「ハンドブック」の作成はできたが、系統的に整理されたものではない。

2）提供するサービスの質を向上させるため、指導者、ボランティアリーダーを対象とした研修を計画的に開催します。

★水泳、サッカー、体育事業いおいては、外部講師を招き、研修会を開催することができた。

3）2020年度から取り組んでいる伴走プログラムを具体的に日々の活動に活かしていくしくみを作ります。

★　「伴走プログラム」の特価した研修会を開催し、伴走プログラムの記入の仕方も「事実」と「解釈」という項目に分けて評価できるシステム変更し、取り組むことができた。これにより、指導者の視点も整理され、記入が指導に活かされつつある。

3. 「心をひらき、分かち合う、前向きでまわりを惹きつける魅力を持つ」若者を育てます。

1）水泳、サッカー、体育、野外活動に関わるボランティアリーダーがそれぞれのプログラムにおける基本的知識とスキルを習得できるようにします。

★水泳、サッカー、体育、スキーキャンプには外部講師を招き、リーダ対象にリーダートレーニングを開催した。

★サマーキャンプの1泊実技研修を2回に分けて開催した。

★ウエルネス理解の研修会を開催した。

2）ボランティアリーダーに対して盛岡YMCAのウエスネスプログラムだけではなく、人権、平和、環境、宗教、歴史、哲学等さまざまな分野に対しての学びの場を提供します。

★3年目をむかえた「子どもの人権プロジェクト」では、人権カルタが完成し、ワークショップを開催することができた。

3）YMCAの持つグローバルなネットワークを活かし、ボランティアリーダーに対して盛岡YMCA以外での研修の場を積極的に提供していきます。

★　北海道で開催された「YMCA農村青年塾」ボランティアリーダー1名を派遣した。

★ 能登半島被災地復興支援活動に5名のリーダーOB,現役リーダーを派遣した。

★　5月に盛岡YMCA主管で「第55回全国YMCAリーダー研修会」を岩手山青少年自然の家で開催した。盛岡YMCAから39名のリーダーが参加した。

★　11月に静岡県御殿場市にあるYMCA東山荘で開催された「第23回日本YMCA大会」に12名の学生ボランティアリーダーを派遣した。

4）5年後、10年後ユース世代になる、今、盛岡YMCAのプログラムに参加しいる子どもたちに対して、ボランティアの機会を積極的に提供します。盛岡YMCAが行う地域活動への参加を積極的に促していきます。

★　「インターナショナルチャリティーラン」「国際協力街頭募金」にプログラムに参加したメンバーや放課後児童クラブのOB,OGの中高生の参加してくれるようになった。

Ⅱ地域の諸団体と連携し、地域の抱える課題解決に取り組みます。

1）「チャリティーラン」「国際協力募金」「ピンクシャツデー」「人権プロジェクト」「貧困問題に取り組む他団体との協働」「環境問題に取り組む他団体との協働」など地域の抱える課題に積極的に取り組んでいきます。

★　「第6回盛岡YMCAチャリティーラン」は、参加者数227名、参加チーム数37名、ボランティア数100名といずれも過去最高となった。

★　岩手在住の外国人のボランティアサークルと共同で能登半島支援のチャリティーコンサートを開催した。

★　会員に食料品の寄付を呼びかけ、岩手フードバンクへ提供した。

★　岩手県雫石町とその近隣の有機農業に関心のあるメンバーで構成されている団体「オーガニック雫石」の協力のもと、学生ボランティアリーダーの農業体験を開催した。

2）「国際協力募金」「チャリティーラン」「震災復興支援募金」「一般寄付」「維持会費」「リーダー育成募金」「中高生支援募金」等盛岡YMCAに対する募金、寄付を他のYMCAを参考によりわかりやすく整理したものにし、積極的に寄付を募っていきます。

★　整理した形で表出することはできなかった。

Ⅲ　盛岡YMCAの活動を継続させ、より充実させていくために、その土台となる組織の強化を図ります。

1.　盛岡YMCAの職員がYMCA理解を深め、計画的に確実に業務に取り組んでいいけるスキルと習慣を見つけることができるよう、計画的な研修を実施します。

★日本YMCAスタッフ研修ステップⅡに職員1名が参加した。

★東日本スタッフ研修会に2名の職員が参加した。

★ウエルネス担当社会に1名の職員が参加した。

★チャイルドケア、ウエルネス事業などそれぞれの事業部において、外部講師を招き研修会を行った。

★毎月開催されるスタッフ会議において「YMCA理解」の研修を行った。

★安全運転講習を春と冬2回開催した。

★救急法、食物アレルギー対策の研修会を開催した。

2. もりおかワイズメンズと協働し盛岡YMCAのボードメンバーの開拓に取り組んで行きます。特に女性の常議員候補者を募っていきます。

★ボードメンバーの開拓を行うことができなった。

★もりおかワイズメンズクラブのメンバー増員に協力し成果を上げることができなった。

3.盛岡YMCAのボードメンバー、維持会員の皆さんに対してYMCAが行う地域活動への積極的な参加を呼び掛けていきます。

★維持会員の数を増やすことができなかった。

★チャリティーラン、国際協力募金には、会員並びに保護者の方の参加もみられるようになった。

4.ICT「情報通信技術」を有効に活用し、日々の仕事の効率化を図ります。

★グーグルドライブを用いて、会議の資料の管理等が整理された。

★グーグルフォームを用いての申し込み受付も機能するようになった。

★フルタイム職員全員にPCを貸与できるようになった。

5.　岩手県、盛岡市、滝沢市、矢巾町の動向に注目し、公益協働事業の可能性の調査を継続します。

★積極的に行政を訪問し、関係性を築くことはできなかった。

今後の課題

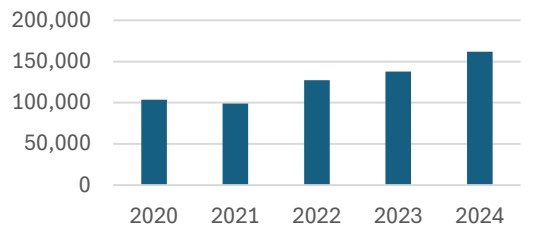
重点課題のⅠ，Ⅱについては、職員、リーダーの努力により、成果を上げることができた。一方でⅢについては、事務の効率化、各種研修の開催を行うことはできたが、盛岡YMCAとして外部への働きかけが弱かった。2025年度は以下のポイントを念頭におき、事業計画の達成のに努めていく。

1　寄付金の使途をわかりやすく伝え、増額を図る。
2　社会課題の解決につながるプログラムを開発、実施し、周知を図る
3.　ボードメンバーの開拓をする。特に女性の常議員を増やす。
4.　さらなる、事務の効率化（ICTの活用）を図る。
5.　職員、の資質の向上をはかる。（論理的思考、計画的な仕事の進め方、社会課題への関心、プログラムの専門性の向上等）

② 2024年度 盛岡YMCA事業報告

「統計資料　5ヶ年推移」

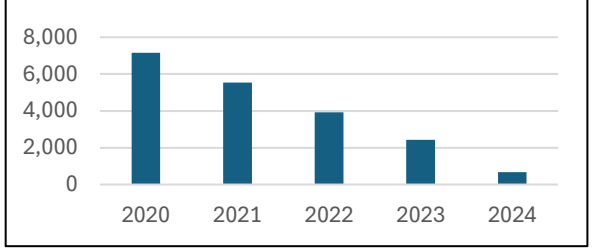
収入総額（千円）



2020	2021	2022	2023	2024
103, 692	99, 159	127, 300	137, 627	161, 913

2024年度は、放課後児童クラブの委託料の増加、キャンプ参加者数の増加が大きい。

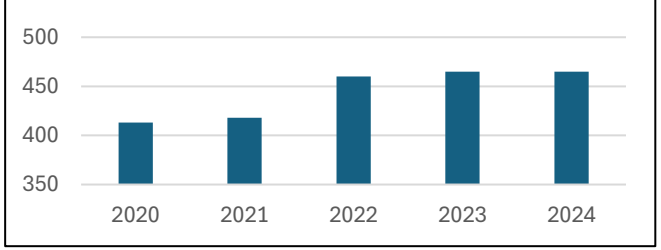
借入金（千円）



2020	2021	2022	2023	2024
7, 156	5, 536	3, 916	2, 431	676

旅行業の営業保証金を供託する際の長期借入金。2025年度で返済完了する。

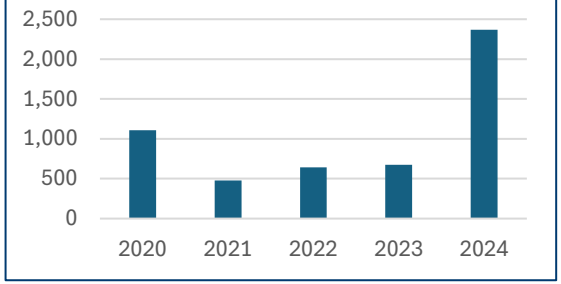
プログラム参加者数



2020	2021	2022	2023	2024
413	418	460	465	465

2022年度以降、中央センターの放課後児童クラブが2単位となり、在籍者倍になった。コロナ禍も収束し、野外活動の参加者が増加した。

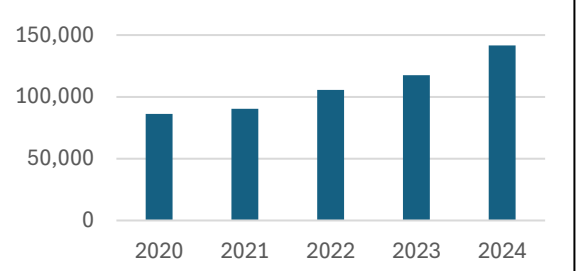
寄付額（千円）



2020	2021	2022	2023	2024
1, 107	478	643	676	2, 369

2024年度　これまで、別会計だった国際協力募金、チャリティラン、リーダー育成募金などを本会計に繰り入れたため。

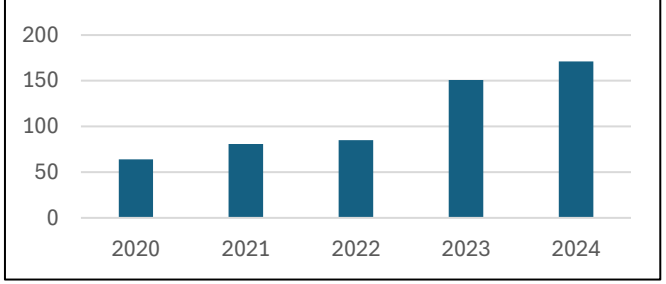
正味財産残高（千円）



2020	2021	2022	2023	2024
86, 199	90, 351	105, 528	117, 405	141, 509

総収入の10パーセントの利益を達成できているため、正味財産の順調に増加している。

ボランティアリーダ数(人)



2020	2021	2022	2023	2024
64	81	85	151	171

岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学においてそれぞれサークル登録を行い、組織的、計画的に新入生の勧誘を行ったことが成果に表れている。

③　2024年度会計報告　2025年度予算

■　3年間の収支推移

	R4	R5	R6		24差額
【経常収益】	2022決算	2023決算	2024決算	2024予算	（決算－予算）
寄付金					
（正会員）	466,000	426,000	362,000	600,000	−238,000
（寄付金）	177,140	250,000	2,007,445		2,007,445
寄付金計	643,140	676,000	2,369,445	600,000	1,769,445
助成金	897,000	4,395,000	230,000		230,000
補助金			1,013,060		1,013,060
事業収益	51,548,318	59,528,297	69,295,981	63,712,000	5,583,981
受託事業収益	72,884,343	72,712,389	86,062,839	70,572,000	15,490,839
その他	1,328,091	316,216	3,885,729	0	3,885,729
経常収入計	127,300,892	137,627,902	162,857,054	134,884,000	27,973,054
【経常費用】					0
事業費					0
（人件費）	71,774,528	79,720,095	80,431,355	85,925,000	−5,493,645
（その他事業費）	30,978,347	38,978,467	50,301,655	40,329,000	9,972,655
事業費計	102,752,875	118,698,562	130,733,010	126,254,000	4,479,010
管理費計	9,370,368	7,052,626	6,742,338	3,257,000	3,485,338
経常費用計	112,123,243	125,751,188	137,475,348	129,511,000	7,964,348
当期経常増減額	15,177,649	11,876,714	25,381,706	5,373,000	20,008,706
経常外収益	0	500	99,998		99,998
経常外費用	0		337,037		337,037
当期正味財産増減額	15,177,649	11,877,214	25,144,667	5,373,000	19,771,667

■　3年間の財務状況推移

	R4	R5	R6
	2022年度	2023年度	2024年度
流動資産	95,014,477	72,357,686	63,454,637
固定資産	23,656,326	57,780,476	89,708,205
資産の部　合計	118,670,803	130,138,162	153,162,842
流動負債	9,226,098	10,301,243	9,937,312
固定負債	3,916,056	2,431,056	675,000
負債の部　合計	13,142,154	12,732,299	10,612,312
前期繰越正味財産	90,351,000	11,877,214	117,405,863
当期正味財産増減額	15,177,649	105,528,649	25,144,667
正味財産　合計	105,528,649	117,405,863	142,550,530

■　2025年度予算

【経常収益】	2024予算	2024決算	2025年予算
寄付金			
（正会員）	600,000	362,000	600,000
（寄付金）		2,007,445	960,000
寄付金計	600,000	2,369,445	1,560,000
助成金		230,000	
補助金		1,013,060	
事業収益	63,712,000	69,295,981	67,223,000
受託事業収益	70,572,000	86,062,839	83,100,000
その他	0	3,885,729	789,000
経常収入計	134,884,000	162,857,054	152,672,000
【経常費用】			
事業費			
（人件費）	85,925,000	80,431,355	87,213,000
（その他事業費）	40,329,000	50,301,655	44,141,000
事業費計	126,254,000	130,733,010	131,354,000
管理費計	3,257,000	6,742,338	3,018,000
経常費用計	129,511,000	137,475,348	134,372,000
当期経常増減額	5,373,000	25,381,706	18,300,000
経常外収益		99,998	0
経常外費用		337,037	
当期正味財産増減額	5,373,000	25,144,667	18,300,000

備考

★　今後の課題
◆正会員収入（維持会員）の増強を図る
◆事業収益の増加を図る
　・新規プログラムの開発　・既存のプログラムの内容の充実

★　固定資産の増加について
　・2023年度の中央通に　2024年度に向中野地区に物件を購入した。今後は、それぞれコミュニティーセンターとして生涯学習事業（語学、学習支援、居場所事業等のプログラム展開を図る）

★　固定負債について
　・2025年度で完済する予定。

④2025年度 盛岡YMCA事業方針・計画

使命⇒中期計画⇒2025年度事業方針・計画⇒アクションプラン

盛岡YMCAの使命

私たち盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども・家族・地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1.こどもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。

2.家族の絆といのちの大切さを深め合います。

3.共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

盛岡YMCA中期計画

Ⅰ地域の未来ををを支える子ども、若者を育てます。

1.子どもたちに安全で安心して過ごせる放課後の時間と居場所を提供します。

2. ウエルネス事業（野外活動を含む）を通して、こどもたちの調和のとれた成長を促します。

3. 「心をひらき、分かち合う、前向きでまわりを惹きつける魅力を持つ」若者を育てます。

Ⅱ地域の諸団体と連携し、地域の抱える課題解決に取り組みます。

1.「チャリティーラン」「国際協力募金」「ピンクシャツデー」「人権プロジェクト」「貧困問題に取り組む他団体との協働」「環境問題に取り組む他団体との協働」など地域の抱える課題に積極的に取り組んでいきます。

2.「国際協力募金」「チャリティーラン」「震災復興支援募金」「一般寄付」「維持会費」「リーダー育成募金」「中高生支援募金」等盛岡YMCAに対する募金、寄付を他のYMCAを参考によりわかりやすく整理したものにし、積極的に寄付を募っていきます。

Ⅲ 盛岡YMCAの活動を継続させ、より充実させていくために、その土台となる組織の強化を図ります。

1. 盛岡YMCAの職員がYMCA理解を深め、計画的に確実に業務に取り組んでいいけるスキルと習慣を見つけることができるよう、計画的な研修を実施します

2. もりおかワイズメンズと協働し盛岡YMCAのボードメンバーの開拓に取り組んで行きます。特に女性の常議員候補者を募っていきます。

3.盛岡YMCAのボードメンバー、維持会員の皆さんに対してYMCAが行う地域活動への積極的な参加を呼び掛けていきます。

4.ICT「情報通信技術」を有効に活用し、日々の仕事の効率化を図ります。

5. 岩手県、盛岡市、滝沢市、矢巾町の動向に注目し、公益協働事業の可能性の調査を継続します。

2025年度　方針・計画

中期5か年計画の最終年度となる2025年度は、次の視点を重視しながら中期計画で掲げた3つの目標の実現に取り組んでいきます。

1.世界を見つめる
2.地域に生きる
3.中期計画の実現に努める
4.次期中期計画を策定する

世界をみつめる。

今年も地球温暖化による異常気象は世界で頻発しつづけており、日本国内においても、大雨による被害が発生しています。また、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナとの間の紛争は未だに、解決の糸口が見いだせないままでいます。他にも生成AIの登場で人間の労働自体が今後大きく変化するなど、現在は、時代の大きな転換期にあると言えるでしょう。

こうした中、私たち盛岡YMCAは世界120の国と地域でおよそ6500万人の会員を有する世界最大のNGOの一員として、そのネットワークを有効に活用し、世界のYMCAと協同して課題の解決に向けて具体的なアクションを岩手の地において発信していきます。

地域に生きる

2022年度、全国において不登校の小中学生は29万9048人で10年連続で増加しています。10年前に比べて小学生は約5倍、中学生は2倍に増えています。この傾向は岩手県でも同様で、2023年度小学生は617名（対前年146名増）中学生は1,388名（対前年180名増）となっています。

2019年、全国のYMCAがブランディングを推進する過程においてコンサル会社が指摘したことの一つは中学生に入るとYMCAが提供できるプログラムが激減することでした。これは、盛岡YMCAも例外ではありません。放課後児童クラブ、サッカー、水泳、体育教室、野外活動クラブ等通常プログラム在籍している小学生は延べ約540名です。また、18歳以降のユースは約140名の学生ボランティアリーダーがYMCAのプログラムを支えてくれています。ところがこれらの間の年代である中学生、高校生はほとんど盛岡YMCAにはやってきません。季節のキャンプにやチャリティーランに野外活動の元メンバーや放課後児童クラブのOB、OGが数名参加してくれるぐらいです。これは、盛岡YMCAにおいて中高生向けのプログラムの受け皿がないことが大きな要因です。思春期と呼ばれるこの年代の少年、少女に対して私たちが大切にする価値を伝え、寄り添っていくことは、YMCAの大きな使命の一つでもあります。

2025年度は具体的なアクションとして以下のパイロットプログラムを開始します。

1．中央通りの本館において、中高生を対象とした無料塾を開始する。

2．新たに向中野地区に購入した物件において、中高生を対象とした無料塾を開始する。

中期計画の実現につとめる

中期5か年計画最終年度となる2025年度は、引き続き掲げた3つの目標の達成に向けて計画的に取り組むとともに、これまで取り組んできたアクションの評価を丁寧に行い、次期中期計画の策定の参考とします。

次期中期計画を策定する。

2026年度から2030年度終了までの次期中期計画を策定します。策定にあたっては以下3つのポイントを重視します。

1. 中期計画策定委員会を組織します。
2. 2020年夏に採択された「世界YMCA　Vision2030」における以下の4つの活動領域に沿った形で表現します。
   Community Wellbeing「コミュニティー　ウエルビーイング」
   Meaningful Work「やりがいのある仕事と雇用、環境の創造」
   Sustainable Planet「持続可能な世界のために」
   Just World　「公正な世界の実現のために」
3. 2025年度（令和7年度）～2034年度（令和16年度）までの基本構想となる「次期盛岡市総合計画」を参考に、地域から必要とされるアクションプランを練っていきます。

使命の達成のために

盛岡YMCAの使命
↑
盛岡YMCA中期計画
↑
2025年度方針・計画
↑
2025年度アクションプラン

アクションプランの達成に向けて

（年間スケジュール）

アクションプランの具体的実行計画
↓
各事業におけるKPI管理（毎月）
↓
アクションプランの4半期評価の作成
（6月・9月・11月・年度末）
↓
アクションプランの見直し（9月末）
↓
各部次年度計画の作成（12月末）
↓
次年度アクションプランの作成（2月末）
↓
年度末評価　・次年度アクションプランの具体的実行計画（3月末）